

項目	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導ができやすい。 ・学校行事や部活動等において、児童生徒一人ひとりの個別の活躍の機会を設定しやすい。 ・少人数のため、タブレットを効果的に活用した学習活動が仕組みやすい。(2) ・オンライン授業により近隣校との交流を深めることができる。(デメリット解消のため) ・複式の授業により、児童はより主体的に授業に取り組むことができる。 ・対話的な学びの中で、一人ひとりが自分の考えを明確に表す機会が増え、結果的に主体的に学ぶことにつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ・運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ・中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ・部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。 ・教科担任制が進まず、高学年でも、担任がほとんどの教科を担当することとなる。(2) ・児童一人の学年もあり、一人ではさすがに学習が深まりにくい。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒同士が、互いをよく理解しあえ人間関係が深まりやすい。 ・異学年間の縦の交流が生まれやすい。 ・児童生徒一人ひとりがリーダーや代表者を務める機会を得やすい。 ・低学年に対する高学年の面倒見がよくなるなど、高学年としての責任感が身に付きやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交友関係が限定されやすく、相互の評価等が固定化しやすい。その結果、他者への想像力や配慮が育ちにくい。 ・クラス替えが無い場合、人間関係がこじれると修復が困難になることがある。(新たな人間関係を構築できない。) ・児童同士の相互理解が進んでいることから、互いの考えをきちんと伝え合う必要性を感じていない場面があり、その結果として子どもたちのコミュニケーション能力の成長が阻害されることがある。 ・組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。 ・係等の役割を複数担うことで、経験値が増える一方で、生徒一人ひとりの負担が大きくなりやすい。
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。特に、生徒指導面では生徒一人ひとりの情報を共有しやすく、全校体制で指導にあたることことができる。(2) ・施設設備の使用にゆとりがあり、柔軟に対応できやすい。 ・校外での学習や活動を行う場合の制約が少ない。(融通が利きやすい) ・校務分掌における担当業務が教員毎に明確になることで、責任感の向上につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数が少ないため、経験、教科、特性等の面でバランスの取れた配置を行っていくにくい。 ・教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行っていくにくい。 ・教職員一人が担当する校務分掌が多く、負担が大きくなりやすく、研修の時間が取りにくい(6)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域社会との連携が図りやすい。 ・中心市街地から離れている学校が多く、自然豊かで落ち着いた環境の中で学校生活を送ることができる。地域の特色も多い。 ・行事や給食等に変更の必要が生じた場合でも、臨機応変に柔軟な対応ができる。 ・児童生徒一人ひとりの顔が見えやすく、地域における安全・見守り活動等を進めやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。 ・活動内容が限定されるなど、PTA活動に制約が生じやすい。(2) ・社会見学のバス代など、一人当たりの費用負担が大きくなる。 ・掃除や草抜き、花壇整備等の環境整備における負担が大きい。 ・他の学校と離れている学校が多く、近隣の学校と切磋琢磨し高まっていく雰囲気になりにくい。

大規模校のメリットとデメリット

項目	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。 ・運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ・グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい。 ・中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。 ・様々な部活動の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。 ・ひと学級に一定の児童数が期待できることから、多様な考え方に触れる機会が多く、協働的な学びを展開しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員による各児童生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。 ・学校行事や部活動等において、児童生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。 ・児童生徒1人ひとりに対するきめ細かな学習指導を行いにくい。 ・体育館、運動場、特別教室等の利用について、学年やクラス間の調整が難しくなり、柔軟な学習スケジュールが組みにくい。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ・切磋琢磨することなどを通じて、社会性や協調性、たくましさなどを育みやすい。 ・学校全体での組織的な指導体制が組みやすい。 ・学年行事や異学年との交流など、人とのかわりを学べる場や機会を提供しやすい。 ・児童会活動で達成感を感じるなど、集団の力を自覚しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい ・全教職員による各児童生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。 ・児童生徒1人ひとりに対するきめ細かな生活指導を行いにくい。 ・特別な配慮を要する児童にとっては、刺激過多となり、時にトラブルに発展することがある。
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が多いため、経験、教科、特性などの面でバランスの取れた配置を行いやすい。 ・教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすく、人材育成を図りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員相互の連絡調整が図りづらい。 ・施設設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。

北部地域の適正化について（案）

■ 中間答申での考え方

《北部地域の検討対象校》

- ・ 二俣瀬小学校、小野小学校、万倉小学校、吉部小学校

《検討対象校の適正化》

・ 北部地域の学校については、通学距離が配置基準を大幅に超えていることから、ICT等を活用した他校との交流や地域と連携した教育を推進することで当面の間、現在の学校を維持していくが、今後の児童数の推移を注視し、教育環境の維持が困難と認められるに至った場合には適正配置を進めていく。

■ 具体的な方向性

○ 適正化を推進していく判断基準

- ・ 「教育環境の維持が困難と認められる状況」⇒児童数が全体で12人未満（1学級当たり2人未満）になった場合
- ・ 令和10年度における児童数が上記の状況に至った場合、もしくは、その時点における6年後までの児童数の推計（住民基本台帳上の推計値）が、概ね12人未満の場合は適正化を推進していく。
- ・ 北部地域における、適正化のモデル（適正化の組み合わせ）を示しておき、基準に該当した学校から適正化を進めていく。もしくは、適正化モデルの中の1校が基準に該当した場合、同時に適正化を進めていく。

○ 適正化モデル(案)

別添のとおり

◆適正化モデルシュミレーション

【北部地域】

資料 2 - 2

モデル1

1 対象校： 小野小・二俣瀬小・厚東小・厚東川中

	令和10年度推計													
	児童生徒数							学級数						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
小野小	0	2	1	0	0	4	7	1		1		1		3
二俣瀬小	1	0	3	4	3	4	15	1		1		1		3
厚東小	8	6	4	9	11	8	46	1	1	1	1	1	1	6
厚東川中	17	8	20	/	/	/	45	1	1	1	/	/	/	3

2 適正化後の児童数・学級数

◆例1-1

対象校： 小野小・厚東小

学校の位置 現厚東小

	令和10年度推計						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	8	8	5	9	11	12	53
学級数	1	1	1	1	1	1	6

◆例1-2

対象校： 二俣瀬小・厚東小

学校の位置 現厚東小

	令和10年度推計						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	9	6	7	13	14	12	61
学級数	1	1	1	1	1	1	6

◆例1-3

対象校： 小野小・二俣瀬小・厚東小

学校の位置 現二俣瀬小

	令和10年度推計						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	9	8	8	13	14	16	68
学級数	1	1	1	1	1	1	6

◆例2

対象校： 小野小・二俣瀬小・厚東小・厚東川中

学校の位置 現厚東川中

	令和10年度推計										
	小学校							中学校			
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	合計
児童・生徒数	9	8	8	13	14	16	68	17	8	20	45
学級数	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	3

学級数計

モデル2

1 対象校: 吉部小・万倉小・船木小・楠中

	令和10年度推計													
	児童生徒数							学級数						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
吉部小	0	2	3	1	2	4	12	1		1		1		3
万倉小	1	3	2	4	4	3	17	1		1		1		3
船木小	16	14	14	22	15	27	108	1	1	1	1	1	1	6
楠中	30	31	26	/	/	/	87	1	1	1	/	/	/	3

2 適正化後の児童数・学級数

◆例1-1

対象校 : 吉部小・船木小

学校の位置 現船木小

	令和10年度推計						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	16	16	17	23	17	31	120
学級数	1	1	1	1	1	1	6

◆例1-2

対象校 : 万倉小・船木小

学校の位置 現船木小

	令和10年度推計						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	17	17	16	26	19	30	125
学級数	1	1	1	1	1	1	6

◆例1-3

対象校 : 吉部小・万倉小・船木小

学校の位置 現船木小

	令和10年度推計						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	17	19	19	27	21	34	137
学級数	1	1	1	1	1	1	6

◆例2

対象校 : 吉部小・万倉小・船木小・楠中

学校の位置 現楠中・船木小

	令和10年度推計													
	小学校							中学校				学級数計		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	合計			
児童・生徒数	17	19	19	27	21	34	137	30	31	26	87	9		
学級数	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	3			

6. 5507 5508
注：この図は、現時点での利用範囲を示すものであり、変更される場合があります。
また、この図は、現時点での利用範囲を示すものであり、変更される場合があります。
また、この図は、現時点での利用範囲を示すものであり、変更される場合があります。



1:35,000

